

# 南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和2年 9月 7日(金)

学校関係者評価委員会作成

## 第一回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年 9月 3日(木) 午後7時00分～

会 場：小笠原小学校図書室

評価者：学校関係者評価委員

名取 昇 (小笠原区自治会長, 学校評議員)  
川上 章 (山寺区自治会長, 学校評議員)  
渡邊 正義 (教育委員, 元小笠原小学校校長, 学校評議員)  
野中 雅子 (主任児童委員, 学校評議員)  
島崎 進 (民生委員協議会会長, 学校評議員)  
相原 千里 (元小笠原小学校校長, 学校評議員)  
新津 岳 (元市教委教育部長・教育行政, 学校評議員)  
渡辺 健一 (PTA会長)  
飯久保一男 (校長) 佐野 紳二 (教頭) 松田 晃一 (主幹教諭)

### 内 容

- 1 学校側から提案の内容
  - ①学校関係者評価の趣旨
  - ②本年度の学校経営方針並びに現状
  - ③学校評価の方法について
  - ④評価の全体的な傾向について
  - ⑤児童アンケートの内容と結果について
  - ⑥保護者アンケートの内容と結果について
  - ⑦教職員自己評価シートの内容と結果について
  - ⑧まとめ…学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について
- 2 協議された主な内容
  - ①学校評価への全体評価について
  - ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
  - ③今後の改善策について

## 《学校関係者評価書》

### I 全体評価

全校児童及び保護者のアンケートの集計結果と教職員の自己評価シートの集計結果から出した平均点数は、保護者アンケートの一部の項目を除くほとんどの項目でプラスの評価であった。小笠原小学校では学校経営方針に基づき、教育活動全般にわたって適切な指導が行われ、そのことが児童や保護者に肯定的に評価されていると考えられる。

## II 学校関係者評価委員会の中で出された主な意見

### 【教職員自己評価について】

- ・ 自己評価の結果を見ると、先生方が校長先生の示す学校教育目標や学校経営方針に沿って頑張っている様子が伝わってくる。
- ・ 学校教育目標の「自分を大切に、他者を大切にする」は、この地域を発祥とする小笠原流礼法の本質に基づき、つくられたものである。校訓の「あかるく かしこく たくましく」とともに、6年間の小学校生活を通して、子どもたちには体に刻んでほしい目標である。
- ・ 学校だよりやホームページは、地域住民に学校生活の様子を分かりやすく伝えているとともに、保護者へのよい啓発となっている。保護者の受け取り方は様々だろうが、今後も継続して発信していくことで、徐々に効果が表れてくるのではないだろうか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が、職員の多忙化にも影響していることが分かる。教育委員会ともうまく連携を取りながら、学力向上支援スタッフやスクールサポートスタッフなどもうまく使いながら、対応していくとよいのではないかと。

### 【児童アンケートについて】

- ・ 携帯電話、スマートフォンの所持率の高さに驚かされた。子どもたちが携帯電話やスマートフォンをどのように使用しているか、また、スマートフォンも含めて子どもたちがどのくらいの時間ゲームに時間を費やしているのかも気になる。ICTの発達には便利な面もあるが、だれとでも簡単に繋がれたり、非対面でのコミュニケーションの取り方で思わぬトラブルが起こったりするなど、気をつけなければならない課題も多くあると思う。ICT機器の使い方については、学校でも指導を継続してほしい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症による休校や新しい生活様式に沿った生活で、子どもたちも多くのストレスを感じている。対話的な授業が難しいことや、マスクをしてのコミュニケーションを強いられることも、アンケートの結果に影響しているかもしれない。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、できることから少しずつ取り組み、子どもたちのストレス軽減を図ってほしい。
- ・ 子どもたちが朝、元気に登校する姿を見ると、とても安心する。登校するときや地域でもよくあいさつをしてくれる子どもが多い。
- ・ 子どもの数が減ってきたことや少人数学級制の導入により、一人一人の子どもに大人の目がより行き届くようになってきているが、それによって子どもたちが窮屈さを感じていないか。子どもたちができることに注目し、あまり細かな指示を出すことを控えることで、子どもが委縮せずに伸び伸びと活動し力を伸ばしていけることもあると思う。

### 【保護者アンケートについて】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、本年度はPTA活動がほとんど行うことができない状況だが、学校側と連携を図りながら、できることに一つ一つ取り組んでいきたい。
- ・ 家庭学習への取り組みの評価が児童アンケート・保護者アンケートともに低い評価となっているが、子どもたちへの指導や保護者への啓発活動とともに、家庭学習につながるような授業づくりを先生方にも取り組んでほしい。
- ・ 悩みを持っている保護者が約半数ほどいる状況だが、特に不登校の子どもへの保護者は悩みとともに大きなストレスを感じているだろう。保健室登校や少人数指導、適応教室やスクールカウンセラーの利用など、子どもたちへの対応を進めると同時に、保護者へのサポートも行ってほしい。

## 【その他】

- ・最近、学校のすぐ近くの交差点で自動車の事故が多発している。朝の通学時には事故は起きていないが、子どもが下校する時間帯に近い時間にも事故が起きている。駐在所への依頼を行うとともに、学校と保護者、地域住民が協力して、子どもの安全確保に努めていく必要がある。
- ・アンケート調査を実施することで、普段見ている子どもたちの様子からは見えなかったものが見えてくることもある。今回のアンケートの結果を分析し、結果を公開するとともに、対策を立てて評価の低かった項目については改善を図ってほしい。

## Ⅲ 今後の改善策・重点課題について

- **新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を各学級でどのようにして実現させていくか、教職員一人一人が課題意識をもって授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力の育成に努める。**
  - ・課題について一人で考える時間、ペアで考える時間を確保する。
  - ・ノートを使った授業を大切にし、書く力を育てる。
  - ・授業の中に「問題発見」や「問題解決」の過程を取り入れ、考える場面を仕組む。
  - ・子ども同士の意見交流の機会を設け、友だちの考えを理解する力を育てる。
  - ・「なぜそう思うのか」「どこからそう思うのか」を問う。
  - ・学校での授業と関連づいた家庭学習の課題を与えたり、保護者への家庭学習の啓発を行ったりすることにより、家庭学習の活性化を図る。
- **子どもたちの健全な育成のために、学校・家庭・地域住民・関係機関が今後も連携を継続する。**
  - ・学校と保護者が連絡を密にとり、連携・協力して、一人一人の子どもの育ちに関わっていく。
  - ・学校だよりや学年だより、ホームページなどで学校の教育活動の様子や教育方針を積極的に発信し、保護者や地域の理解や協力が得られるようにする。
  - ・PTA活動・ボランティア活動などいろいろな協力活動を通して学校と保護者・地域の距離を縮め、子どもの育ちを共に考えていく関係づくりを進める。